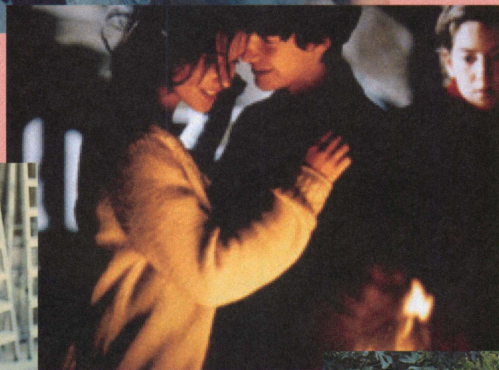




交差する時間  
すれ違う光



冬時間のパリ 公開記念特別上映

# オリヴィエ・アサイヤス監督特集

冷たい水 L'eau froide

イルマ・ヴェップ Irma Vep

8月の終わり、9月の初め Fin août, début septembre

夏時間の庭 L'Heure d'été

1.3 (金) ~~1.16~~ (木)



協力：アンスティチュ・フランセ日本

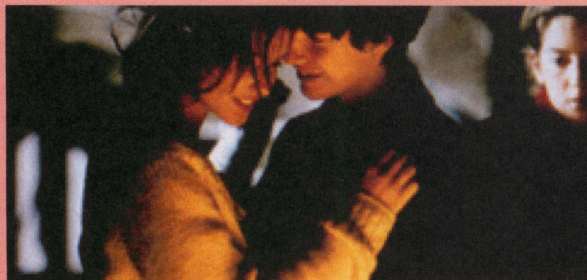
素材提供：エルメスジャパン株式会社、MK2、  
オレンジ・スタジオ、パネ・ディストリビューション、  
ピラミッド・インターナショナル

LE CINÉMA  
Bunkamura  
Shibuya TOKYO





時の移ろいの中で訪れるふとした瞬間、人生の一瞬を、繋ぎ止めるように紡いできたオリヴィエ・アサイヤス監督。新作『冬時間のパリ』の公開にあわせ、過去・現在・未来すべてに等しくまなざしを向けるそのフィルモグラフィから選りすぐりの4本を特別上映。



©DR

## 冷たい水

1994年 / 92分 / カラー / 35ミリ  
ヴィルジニー・ルドウィヤン、シブリアン・フーケ、ラズロ・サボ

1972年の冬のある日、日常のすべてに鬱屈を抱える少女が同級生の少年を連れ、森の奥へ逃げ出す。ジャニス、CCR、アリス・クーパーなど、当時のアメリカン・ロックの響きが少年・少女たちの躍動や焦燥感と分かちがたく結びついている希有な映画。「それまで使ったことがない16ミリの超軽量カメラを使用し、低予算、短期間で、まるでアンダーグラウンド映画を撮っているようで、70年代の雰囲気自ずと溢ってきた。脚本は書いたものの、目の前に見えるもの、場所、シチュエーションに導かれて撮影した。それ以降の僕の映画作りの『自由』の礎となるものを本作で見出した。」

楽曲使用料の問題で未公開だったアメリカでは、2018年にソフト化され「青春映画の傑作」と高評価を受ける。アサイヤスの敬愛するギー・ドゥボールが自作に引用した「われわれは夜に彷徨い歩こう、そしてすべてが火で焼き尽くされること」(邦題訳)のラテン語回文を体現する様なパーティーシーンは圧巻。



©DR

## イルマ・ヴェップ

1996年 / 98分 / カラー / デジタルリマスター版  
出演マギー・チャン、ジャン＝ピエール・レオー、ナタリー・リシャール

現実とファンタジー、変遷する都市、映画の歴史……。引き裂かれ、揺れ動き、混沌とした場所を一人ポントージュに身を包んで徘徊するマギー・チャン。魔法のようなドキュメンタリーであり、血が滴り落ちるフィクションでもあるアサイヤスの代表作。「イルマ・ヴェップ(Irma Vep)」とは、ルイ・フィヤード監督の連続活劇「吸血キヤング団」(1912)で活躍する女盗賊の名前(同作の原題“Les vampires”の綴り変え)で、オリジナルでは伝説的な女優ミュジドラが演じた。「マギーは、物語の中のマギーと自分を重ねあわせたいと望み、自分自身をこの映画の中のシチュエーションに置き、本能的にその状況に応じることを望んだ。自分の役が作り上げられていくにしたがって、自分自身に驚くこと、驚かされることを受け入れていった。」

SONIC YOUTH、アリ・ファルカ・トゥーレらの名曲と共に、静かに熱を帯びる夜のパリを映し出す。トリュフォー『アメリカの夜』の変奏とも言える名作。



©Pathé Films

## 8月の終わり、9月の初め

1998年 / 112分 / カラー / デジタルリマスター版  
フランソワ・クルーゼ、マチュー・アマルリック、ヴィルジニー・ルドウィヤン、ジャンヌ・バリバル  
編集者のガブリエルは、長年付き合ったジェニーと別れ、アンヌと付き合い始める。そんな時、敬愛している友人の小説家が病で倒れる……。親しい者の死を前に、生き残った者たちは、それぞれどのようにその死を受け止め、新たな人生を生きていくか模索する。「現在において、絵画における印象派のような映画への道、方法を探していた。日常生活とアートの実践が同じひとつのものであり、互いが深く流れて、循環し合っているような道を。そしてマチュー・アマルリックやジャンヌ・バリバルという、かつての偉大なヌーヴェルヴァーグの俳優たちが持っていた現代性、知性、自然さを兼ね備えた存在と出会い、映画が始動し始めた。」

作家や編集者などのモチーフ、人生がいく層にも折り重なるという点でも『冬時間のパリ』と対になる作品。のちに監督となるミア・ハンセン・ラヴが映した輝きを見せるラストシーンは、アサイヤスの真骨頂とも言うべき素晴らしい。



©2008 MK2 SA-France 3 Cinema

## 夏時間の庭

2008年 / 102分 / カラー / 35ミリ  
ジュリエット・ピノシュ、シャルル・ベルリング、ジェレミー・レニエ、エディット・スコブ  
パリ郊外。母エレヌの誕生日を祝うため、画家である大叔父ポールのアトリエだった家に帰って来た3人の子供たち。陽光溢れる夏の庭での食事。楽しい時間にも関わらず、母はしきりに美術品の行く末を気にかけていた。それから1年後、エレヌは静かにこの世を去る。3人の子供達には広大な家と庭、そして貴重な美術品が遺される。相続処理を進める中で3人が向き合うのは、思い出しに彩られた家への愛着と現実とのジレンマ。そして母の想いだった…。フランスのオルセー美術館の設立20周年を記念して作られた三世代に渡る家族の物語に、ジュリエット・ピノシュ、エディット・スコブ、ジェレミー・レニエらフランスを代表する名優が集結。登場する美術品のほとんどが、美術館や個人の所蔵から貸し出された本物であり、それらを観ているだけでも楽しい作品。陽光が降り注ぐ中、観る者の予想をいい意味で裏切られるみずみずしいラストシーンは、アサイヤス自身の時間へのまなざしが多分に感じられる。

連日	1.3(金)	1.4(土)	1.5(日)	1.6(月)	1.7(火)	1.8(水)	1.9(木)
16:30~	イルマ・ヴェップ	冷たい水	8月の終わり、 9月の初め	夏時間の庭	冷たい水	イルマ・ヴェップ	8月の終わり、 9月の初め
連日	1.10(金)	1.11(土)	1.12(日)	1.13(月)	1.14(火)	1.15(水)	1.16(木)
14:45~	夏時間の庭	8月の終わり、 9月の初め	冷たい水	イルマ・ヴェップ	夏時間の庭	夏時間の庭	夏時間の庭

オリヴィエ・アサイヤス監督新作『冬時間のパリ』Bunkamuraル・シネマにて絶賛上映中!

冬時間のパリ 公開記念特別上映  
オリヴィエ・アサイヤス監督特集  
料金 1,300円均一 / 『冬時間のパリ』半券ご提示で1,100円  
※フィルムの状態によっては、映像と音声にお見苦しい箇所がございます。予めご了承ください。

渋谷・東急本店ヨコ  
Bunkamuraル・シネマ  
03(3477)9264 www.bunkamura.co.jp

